



## 特集・土木学会昭和 44 年度全国大会

東京都



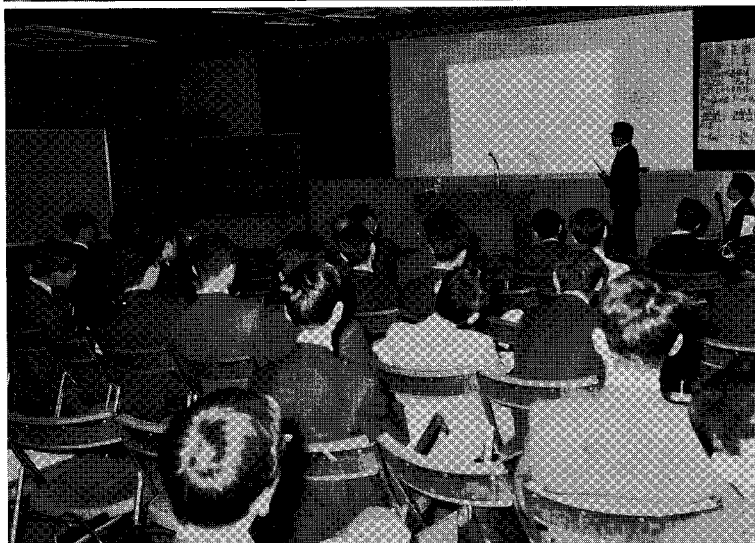
昨年から総会と切り離して実施することとなった全国大会が、さる9月26日から9月30日まで天候に恵まれた東京都千代田区麹町会館を中心会場として盛大に行なわれた。本年は、吹き荒れる大学問題の余波を受けて一般の建物を利用して大会を行なわなければならないため会場が分散したが、参加者多数の熱意により成功裏に終了した。本号は、本年の全国大会の全容を伝えて、あわせ最近のわが国の土木学界の動きを会員諸氏に知っていただけるよう配慮して編集した。

写真説明

1. 砂防会館ホールで実施された特別講演会で講演する柳沢米吉会長
2. 麴町会館地階地財ホールで実施された部門講演会で部門講演をする奥村敏恵東大教授と会場をうめた参加者
- 3,4. 年次学術講演会会場で熱心に発表・討論する参加者
5. ホテルニュージャパンで行なわれた懇親会寸景



3



4



5

## 内容・主旨紹介

今月号の登載記事の要旨を記してあります。切り取ってパンチカードにはりつけて整理して下さい。

## 特集・土木学会昭和44年度全国大会報告／土木学会関東支部・土木学会誌編集委員会

土木学会誌第54巻第12号, pp. 2~68, 昭和44年12月 (December 1969)

昨年から総会ときりはなして実施されることとなった全国大会(9月26日~同30日・見学会日程を含む)が、東京都麹町会館周辺を中心会場として盛大に行なわれた。全国大会は、特別講演会、第24回年次学術講演会(部門講演・研究発表)、懇親会、見学会などからなっているが、本号はこれら各種の行事をとりまとめて報告するものである。なお、年次学術講演会報告は、総括報告の形式をとり、専門分野ごとに収録した。

### トンネル工学シリーズ 1 第1回トンネル工学シンポジウム

B5判・106ページ

400円・会員特価 300円

(〒50)

トンネル用鋼アーチ支保工の設計施工について／長大トンネルの地質／トンネル工事における災害の実情について／高熱トンネルの施工について／名古屋市高速度鉄道のシールド工法について／わが国トンネル施工のすう勢と問題点について

### トンネル工学シリーズ 2 最近のトンネル工学 — 工事の実例と話題 —

B5判・136ページ

500円・会員特価 400円

(〒50)

〈第2回トンネル工学シンポジウム〉  
トンネル標準示方書制定について／青函トンネルについて／国鉄新丹那トンネルについて／羽田海底トンネルについて／富士川用水導水トンネル工事について／AN-FO爆剤とその発破法

### トンネル工学シリーズ 3 第3回トンネル工学シンポジウム

B5判・146ページ

1000円・会員特価 800円

(〒70)

トンネル土圧／トンネル土圧の測定方法と現況／トンネル用鋼アーチ支保工の強度について／トンネル掘削における余掘りの実態について／セグメントの設計について／栗子トンネルの工事計画と施工実績について／国鉄親不知トンネルの施工実績について／青函トンネルにおけるウォールマイヤー式トンネル掘削機の掘削試験について／大阪地下鉄線複線型と単線型シールドの実施例と問題点／シールド工法による駅部の施工計画について／わが国における中小口径シールド工事の現況について

### トンネル工学シリーズ 4 わが国シールド工法の実施例・第1集

B5判・338ページ

2200円・会員特価1800円

(〒110)

第I部 工事概要／第II部 設計および実績／第III部 セグメント／第IV部 シールドおよび付属機械／第V部 工事用機械その他／第VI部 主な図表類  
／付録 鉄道および道路・下水道・上水道・電力および通信・地下道その他に分類158件を収録

### トンネル工学シリーズ 5 第4回トンネル工学シンポジウム

B5判・268ページ

1800円・会員特価1600円

(〒100)

ソ連の地下鉄／アメリカのトンネル工事を視察して／アメリカにおける山岳トンネル工法／アメリカにおけるトンネル掘さく機／アメリカにおける都市トンネル／アメリカにおけるコンサルタント業務／アメリカにおける請負工事の諸事情について／アメリカのトンネル施工に関する新技術／欧州のトンネル工事を視察して／欧州におけるトンネル請負工事の諸事情について／欧州における山岳トンネル工法／欧州におけるトンネル掘進機について／欧州のシールド工事／欧州における地下鉄工事／欧州における沈埋工事

### トンネル工学シリーズ 6 第5回トンネル工学シンポジウム〈最新刊〉

B5判・124ページ

1000円・会員特価 900円

(〒100)

六甲トンネルの碎破帯突破について／トンネルの掘さくに伴う地表沈下測定例について／牧の原地すべり地区のトンネル施工について／紅葉山線・新登川トンネルの蛇紋岩区間の施工法と膨張土圧の測定結果について／京葉線・多摩川河底沈埋トンネルについて／大阪地下鉄の沈埋管工事—堂島川と道頓掘川の施工例について—／近鉄難波線の大型機械化シールドの施工例について

# 第16回海岸工学講演会講演集 ● B 5 ・ 384 頁 ・ 3 000 円 ( 千 110 円 )

## 新刊

本書は会員割引の特典はありません。書店でも買えますから申込んで下さい。

1. 有限振幅浅水波の高次近似理論について〈佐伯・泉〉
2. せつ動解による有限振幅重複波理論の適用限界について〈土屋・山口〉
3. 有限振幅波の水粒子速度に関する実験〈岩垣・酒井〉
4. 波動による乱流境界層の発達〈野田〉
5. 波起し機によって起した不規則波の特性〈岩垣・石田〉
6. 砕波の内部機構に関する基礎的研究(第1報)―砕波型にもとづく二、三の考察―〈榎木・岩田・中辻〉
7. 砕波帯の波の研究(2)―一周波数スペクトルの平衡領域および2次元スペクトルの観測例―〈井島・松尾〉
8. 波の上の風の性質に関する実験的研究〈加藤・佐野〉
9. 風波のスペクトルの発達〈光易・中山〉
10. 浅海風波の発達に関する実験的研究〈湯鱗武・郭金棟〉
11. 浅海風のスペクトルについての実験的研究(郭金棟・沙陽生・陳茂松)
12. 大潟海岸における波浪の変化について〈岩垣・柿沼・門司〉
13. 大阪湾における台風時の波浪の数値計算〈合田・永井〉
14. リレーを用いたステップ式波高計と波浪観測塔(2)〈村木・高島〉
15. 超音波式波高計の開発について〈高橋・鈴木・佐々木〉
16. 表面波の近似的方向スペクトルの観測〈鈴木〉
17. 小名浜港の波向解析〈赤塚・砂金・進藤・円城寺〉
18. 相模川河口の堆積土砂量について〈広田〉
19. 漂砂海岸における港口埋没防止対策について〈佐藤・三橋〉
20. 河口水位変化におよぼす導流堤の効果について―河口閉塞機構に関する基礎的研究(第4報)〈榎木・小船〉
21. 千葉県屏風ヶ浦の海岸侵蝕について―航空写真による海蝕崖の後退に関する研究(第2報)〈堀川・砂村〉
22. 重複波による底質の浮遊機構〈服部〉
23. 密度流の問題(4)〈浜田〉
24. 二層流の表層流における変動速度について〈金子〉
25. 淡塩境界面付近の乱れ測定〈岩崎・阿部〉
26. 外洋に面した沿岸部での温水放流に伴う海水温分布の一実例〈大西・小西〉
27. 湾内における物質の拡散(その2)〈堀口・石塚・横田〉
28. 汚染物質拡散の数値解法について〈堀口〉
29. 水理模型実験による廃水拡散の研究(2)―東京湾の流況についての二、三の考察〈江村・塚塚・太田〉
30. 二成層潮汐モデルによる工業用水取排水問題の展開〈和田〉
31. 河口の流れの構造(2)〈柏村・吉田〉
32. 筑後川河口の淡水混合と浮泥の濃度分布について〈満田〉
33. 石狩川河口の研究(5)〈福島・八嶽・高橋・大谷〉
34. 宍道湖・中海の塩分分布特性〈南〉
35. 成層密度流体からの選択取水に関する実験―層分離現象と中層取水―〈日野・古沢〉
36. 冷却水取水設備設計に関連した海生物の問題〈大西・真鍋・原〉
37. 離岸堤の高さについて〈豊島〉
38. 越波量におよぼす消波工の形状について〈白石・豊島・遠藤〉
39. 消波ブロックの抵抗について〈首藤〉
40. 防波堤、護岸に関する二、三の設計例〈尾崎・川上〉
41. 海岸堤防の根固工について〈富永・坂本〉
42. 越波の飛散分布におよぼす風の影響(1)―風速と水平飛散分布―〈高田〉
43. 直立消波岸壁に関する研究(1)―水平板岸壁について―〈井島・尾崎・松尾・小林〉
44. シート型浮防波堤の消波効果について〈加藤・乃万・森野〉
45. 海岸構造物不連続部の波高分布について(第4報)〈三井・筒井〉
46. 透過性構造物による波の変形に関する研究(第1報)―鉛直捨石堤による波の反射率と透過率について〈富永・坂本〉
47. 透過性防波堤の伝達波〈近藤〉
48. 透過性防波堤の波高伝達率に関する実験的研究〈岩崎・沼田〉
49. 海洋構造物におけるジャケットの製作組立て据付け、固定の限界精度について〈長崎〉
50. 横波を受けるスーパータンカーの drifting, swaying および rolling によってドルフィンに働く衝撃力に関する研究〈永井・小田・重藤〉
51. 津波造波装置について〈岩垣・土屋・中村〉
52. 遡上津波先端の境界条件と計算法〈岩崎・富樫〉
53. 津波防波堤の効果について〈堀川・西村〉
54. 湾内津波の計算(1)〈岩崎・楊沢民〉
55. 河川潮汐の研究(2)〈宇野木〉

◆バックナンバーあり。第15回 3 500 円・第14回 2 500 円・第13回 2 200 円◆

郵便番号 160 東京都新宿区四谷1丁目・振替東京 16828・電話 351-4131(直通)

**土木学会**

# 会 告

社団法人 土 木 学 会

行事案内	月 日	行 事 名	場 所	備 考
本 部	1 月 30 日 (金) ~ 31 日 (土)	第 6 回衛生工学研究討論会	土 木 学 会	12号会告 5 頁参照
	2 月 5 日 (木) ~ 6 日 (金)	第 6 回岩盤力学に関するシンポジウム	同	12号会告 6 〃
	2 月 7 日 (土)	第 4 回土木計画学シンポジウム	同	12号会告 8 〃
	2 月 13 日 (金) ~ 14 日 (土)	第 14 回水理講演会	東 京	12号会告 7 〃
北海道支部	1 月 27 日 (火) ~ 28 日 (水)	講 習 会	札 幌 市	12号会告15 〃
中部支部	2 月 20 日 (金)	研 究 発 表 会	名 古 屋 市	12号会告11
関 西 支 部	1 月 17 日 (土)	海外事情講演会	大 阪 市	12号会告12 〃
	1 月 17 日 (土)	会 員 懇 親 会	同	12号会告12 〃
	1 月 30 日 (金)	舗装に関する研究会	同	12号会告12 〃
	1 月 30 日 (金)	若い会員懇親パーティ	同	12号会告13 〃
	2 月 20 日 (金) ~ 21 日 (土)	耐食・耐候材料の現状講習会	同	12号会告13 〃
	3 月 17 日 (火)	都市廃棄物の処理と処分講習会	同	12号会告13 〃
	5 月 10 日 (日)	支部年次学術講演会	東 大 阪 市	12号会告14 〃
西部支部	2 月 22 日 (日)	研 究 発 表 会	福 岡 市	12号会告15 〃
そ の 他	2 月 14 日 (土)	河川災害に関するシンポジウム	東 京	12号会告 7 〃
	5 月 19 日 (火) ~ 20 日 (水)	第 1 回安全工学国内シンポジウム	同	12号会告11 〃
お 知 ら せ	■昭和 44 年度土木学会賞候補ならびに吉田研究奨励金候補の募集 ■構造物の耐風性に関する第 1 回シンポジウムについて ■第 2 回コンクリート講習会—コンクリート技術最近の問題点— ■第 7 回理工学における同位元素研究発表論文募集			12号会告 2 〃 12号会告 8 〃 12号会告 9 〃 12号会告 9 〃

## Civil Engineering in Japan 頒布

Civil Eng. in Japan, 1961	A 4 判	80 ページ	定価	700 円
Civil Eng. in Japan, 1962~3	A 4 判	126 ページ	定価	700 円
Civil Eng. in Japan, 1964	A 4 判	142 ページ	定価	1 000 円
Civil Eng. in Japan, 1965	A 4 判	140 ページ	定価	1 000 円
Civil Eng. in Japan, 1966	A 4 判	128 ページ	定価	1 200 円
Civil Eng. in Japan, 1967	A 4 判	86 ページ	定価	1 200 円
Civil Eng. in Japan, 1968	A 4 判	150 ページ	定価	1 200 円
Civil Eng. in Japan, 1969	A 5 判	160 ページ	定価	1 500 円

## 昭和44年度土木学会賞候補ならびに吉田研究奨励金候補の募集

本年度土木学会賞候補の募集ならびに吉田研究奨励金候補の募集をいたします。表彰規程および下記募集要項をご参照のうえふるって推薦または応募されますようお願いいたします。ただし、土木学会賞のうちの功績賞については公募いたしません。

### ◎土木学会賞候補募集要項

項目 種別	技 術 賞	論 文 賞	吉 田 賞	田 中 賞
候補対象	土木事業の計画、設計、施工等に関し、土木技術の進展に顕著な貢献をなした面期的な総合的業績、もしくは一部の業績	(論文賞) 土木学会誌、論文(報告)集、その他の刊行物に研究、計画、設計、施工、考案などに関する論文を発表し、これが土木工学における学術、技術の進歩、発展に独創的な業績をあげ、顕著な貢献をなしたものである。 (論文奨励賞) 土木学会誌、論文(報告)集、その他の刊行物に研究、計画、設計、施工、考案などに関する論文を発表し、これが土木工学における学術、技術の進歩、発展に寄与し、独創性と将来性に富むもので受賞者の年齢が原則として受賞時(45年5月末日)に満36才未満であるもの。	コンクリート、鉄筋コンクリートおよびプレストレストコンクリートに関する優秀な研究、工事等を行なったものに接写し、その業績が土木学会の刊行物、コンクリートに関する学・協会の刊行物、その他これに類似の刊行物に研究論文、設計、施工、考案などの報告またはそれらの要旨が登録されたものの中から選ばれる。	(論文) 橋梁およびその他の構造物に関する優秀な研究成果を対象とし、公開されたものの中から選ばれる。 (作品) 橋梁およびそれに関連する構造物で、計画、設計、施工、美観などの面においてすぐれた特色を有する物を対象とし、つぎの各グループについて選考する。 (1) 長大橋梁 (2) 中小橋梁 (3) その他特殊橋梁および橋梁に関連するもの
受賞候補者	個人または団体	本会会員に限る。 過去の土木賞受賞者は既受賞者として重ねて同一の賞の候補者となることができない。共著者(共同研究者)のうち非会員、既受賞者(その他)の受賞候補者になることはできないが、受賞候補者には加えることはできない。なお、共著者(共同研究者)を受賞候補者からはふいて推薦する場合は、必ず受賞候補者の当該論文(研究)に対する貢献度を具体的に明記すること。	個人または研究グループ。本会会員、外国人籍のものには、本会士会誌、論文(報告)集、その他の土木学会の刊行物に発表した者に限る。また、過去の吉田賞受賞者は重ねて吉田賞候補となることができない。共著者(共同研究者)の中に既受賞者(その他)受賞候補者になることはできないが、受賞候補者には加えることはできない。なお、共著者(共同研究者)を受賞候補者からはふいて推薦する場合は、必ず受賞候補者の貢献度を具体的に明記すること。	(論文) 個人またはその複数。ただし外国国籍を有する者もその論文については日本において最初に発表されたものに限る。また、過去の田中賞受賞者は重ねて田中賞候補となることができない。共著者(共同研究者)の中に既受賞者(その他)受賞候補者になることはできないが、受賞候補者には加えることはできない。なお、共著者(共同研究者)を受賞候補者からはふいて推薦する場合は、必ず受賞候補者の貢献度を具体的に明記すること。 (作品) 作品自身を対象とするもので受賞候補者はない。
候補の範囲	昭和43年1月1日から昭和44年12月31日までの間にできた業績であって、日本国内において実施されたものに限る。	昭和43年1月1日から、昭和44年12月31日までの間に発表されたもので、土木学会誌、論文(報告)集、その他土木学会の刊行物に連載されたもの、他、他学、協会、大学、官公庁、会社などの刊行物に連載されたものを含む。 なお、同一の問題につき当該期間以前においても論文が発表されている場合には、前掲に該当する論文にその過去における発表論文を加えて総合題目として候補の対象とすることもできる。	昭和43年1月1日から昭和44年12月31日までの間に発表されたもので、土木学会誌、論文(報告)集、その他土木学会の刊行物に連載されたもの、他、他学、協会、大学、官公庁、会社などの刊行物に連載されたものを含む。 なお、同一の問題につき当該期間以前においても論文が発表されている場合には、前掲に該当する論文にその過去における発表論文を加えて総合題目として候補の対象とすることもできる。	(論文) 論文賞・吉田賞に同じ (作品) 昭和43年1月1日から昭和44年12月31日までの間に完成した構造物で日本人により計画、設計あるいは施工されたものに限る。 なお、完成の時期については、原則的には普通の橋梁等では、供用開始の時、その他一連の工事の一部としての橋梁等の構造物には、そのもの自身の完成したと見做される時とする。
推薦(応募)の方法	推薦者は会員、支部、土木事業に関連する学・協会、法人とする。 推薦者は別に定める推薦書、候補業績の要旨各1部を提出する。 なお、当該業績に関する参考資料を添付することを妨げない。	推薦者は会員、支部その他一般とするが、会員目からの応募であってもよい。 推薦者は別に定める様式による推薦書1部を提出する。候補論文が土木学会誌、論文(報告)集以外に発表されている場合は推薦書に添えて本文および審査に必要な資料6部と別に定める様式による候補論文要旨1部を提出しなければならない。	推薦者は会員、支部、その他一般とする。 推薦者は別に定める様式による推薦書1部を提出する。土木学会誌、論文(報告)集以外に発表された候補論文は推薦書に添えて本文および審査に必要な資料30部を提出しなければならない。	(論文) 推薦者は会員、支部、その他一般とする。 推薦者は別に定める様式による推薦書1部を提出する。土木学会誌、論文(報告)集以外に発表されている場合は推薦書に添えて審査に必要な資料20部を提出しなければならない。 (作品) 推薦者は会員、支部、その他一般とする。 推薦者は別に定める推薦書1部を提出する。(写真は25枚添付すること)
(推薦および関係用紙は土木学会本部または各支部に準備してありますから必ずその用紙を使用して下さい)				
審査	表彰委員会において行なう。ただし、審査の途上において推薦者またはその代理人に出席を求め説明をうけることがある。	論文賞選考委員会において行なう。なお、必要あるときは、さらに資料30部の追加提出を求められることがある。	吉田賞選考委員会において行なう。	田中賞選考委員会において行なう。なお必要あるときはさらに関係資料の提出を求められることがある。
表彰	第56回通常総会において行ない賞状、賞牌、賞金を贈る。	第56回通常総会において行ない、賞状、賞牌、賞金を贈る。	第56回通常総会において行ない、賞状、賞牌、賞金を贈る。	第56回通常総会において表彰する。
締切期日	昭和45年1月20日			
提出先	東京都新宿区四谷1丁目 土木学会表彰委員会	土木学会論文賞選考委員会	土木学会吉田賞選考委員会	土木学会田中賞選考委員会

## 土 木 学 会 表 彰 規 程

## (総 則)

第1条 土木学会規則第34条による表彰はこの規程による。

## (賞の種類)

第2条 表彰は次の土木学会賞（総称）を授与して行なう。

1. 功 績 賞
2. 技 術 賞
3. 論 文 賞
4. 吉 田 賞
5. 田 中 賞

## (功績賞)

第3条 功績賞は土木学会の会員であって、土木工学の進歩、土木事業の発達、土木学会の運営に顕著な貢献をなしたと認められるものに授与する。

## (技術賞)

第4条 技術賞は土木事業の計画、設計、施工等に関し、土木技術の進展に顕著な貢献をなしたと認められた画期的な業績に授与する。

## (論文賞)

第5条 論文賞は本会会員であって、土木学会誌、論文（報告）集、その他の刊行物に研究、計画、設計、施工、考案などに関する論文を発表し、これが土木技術の進展に顕著な貢献をなしたと認められた画期的な業績に授与する。

- (2) 論文奨励賞は本会会員であって、土木学会誌、論文（報告）集、その他の刊行物に研究、計画、設計、施工、考案などに関する論文を発表し、これが土木工学における学術、技術に関する進歩発展に寄与し、独創性と将来性に富むものと認められ受賞者の年齢が原則として受賞時に満36才未満であるものに授与する。

## (吉田賞)

第6条 吉田賞はコンクリート、鉄筋コンクリートおよびプレストレストコンクリートに関する優秀な研究、工事等を行なったと認められるものに授与し、その業績が土木学会の刊行物、コンクリート、鉄筋コンクリートおよびプレストレストコンクリートに関する学・協会の刊行物、その他これに類似の刊行物に研究論文・設計・施工・考案等の報告またはそれらの要旨が掲載されたものの中から選ばれる。

## (田中賞)

第7条 田中賞は次の論文ならびに作品に授与する。

## (1) 論 文

橋梁およびその他の構造物に関する優秀な研究結果を対象とし、公刊されたものの中から選ばれる。

## (2) 作 品

橋梁およびそれに関連する構造物で、計画、設計、施工、美観などの面においてすぐれた特色を有すると認められる物を対象とし、長大橋梁、中小橋梁、その他特殊橋梁および橋梁に関連あるもののグループ別に選ばれる。

## (委員会)

第8条 土木学会賞を選考するため次の委員会をおく。

1. 表 彰 委 員 会
2. 論 文 賞 選 考 委 員 会
3. 吉 田 賞 選 考 委 員 会
4. 田 中 賞 選 考 委 員 会

- (2) 表彰委員会は功績賞および技術賞の受賞候補の選考をなし、論文賞、吉田賞および田中賞選考委員会の具申を受けて、必要に応じて各賞間の調整を行ない、土木学会賞受賞候補を決定する。

- (3) 論文賞選考委員会は論文賞候補の選考を行なう。

- (4) 吉田賞選考委員会は吉田賞候補の選考を行なう。

- (5) 田中賞選考委員会は田中賞候補の選考を行なう。

- (6) 前記各委員会の構成、運営、その他については別に内規で定める。

## (賞の決定、表彰の時期・方法)

第9条 土木学会賞は理事会において決定し、表彰は原則として毎年1回通常総会において賞牌、賞状等を授与して行なう。

◎吉田研究奨励金候補者の募集

1. 候補対象

コンクリート、鉄筋コンクリートおよびプレストレスト コンクリートならびにこれらに関連する研究に従事するもので、特に独創性と将来性に富むと認められたもの。ただし、授与されるものが、昭和9年6月1日以降出生のものに限り、かつ特別な場合を除き、同一研究計画に対してすでに吉田研究奨励金を授与されたものを除く。

2. 募集の題目

(1) 要望課題

- ① 鉄筋コンクリート部材の極限設計に関する研究
- ② プレキャストコンクリート部材の接合に関する研究
- ③ 軽量コンクリートに関する研究
- ④ コンクリート内の微細なひびわれに関する研究

(2) 自由課題

3. 募集の方法

日本の国籍を有する個人または研究グループの応募による。

4. 研究成果の報告

研究成果は文書により吉田賞選考委員会に提出するほか、昭和46年10月中旬施行の第26回年次学術講演会において吉田研究奨励金を授与された研究であることを明らかにして発表しなければならない。

5. 応募の方法

一定様式による研究計画書1部を提出する。

(計画書の用紙は土木学会本部および各支部に準備してありますから、必ずその用紙を使用して下さい)

6. 審査

吉田賞選考委員会において行なう。

7. 締切期日

昭和45年1月20日

8. 提出先

郵便番号160 東京都新宿区四谷1丁目 土木学会吉田賞選考委員会

◎昨年度の土木学会賞受賞者(敬称略)

功績賞：原口忠次郎 土木工学ならびに土木事業の進展  
永田年 ”

技術賞：日本国有鉄道 } 過密都市における鉄道の整備計画および施工(地下鉄5号  
帝都高速度交通営団 } 線東陽町～中野間・国鉄中野～荻窪間相互乗入工事)

論文賞：堀川清司 漂砂の移動機構に関する基礎的研究(総合題目)  
岩佐義朗 Free Surface Shear Flow Over a Wavy Bed  
佐佐木綱 } 都市高速道路網における流入ランプ制御(英文)  
明神証 }

論文奨励賞：西野文雄 Residual Stress and Torsional Buckling of H Cruciform Columns

吉田賞：尾坂芳夫 コンクリートの品質管理に関する基礎研究(総合題目)

田中賞：小西一郎 } 長大つり橋の地震応答と耐震設計法に関する研究  
山田善一 }  
高岡宜善 }  
尾道大橋 }  
浜名湖橋 }  
第三綾瀬高架橋 }



第6回 衛生工学研究討論会

◀ 1月30日(金)~31日(土) ▶

下記により標記シンポジウムを開催いたします。多数ご参加をお待ちしております。なお、今回から当日の討議を活発に願うため事前に講演論文集を頒布することにいたしましたので、ご希望の方は1970年1月15日までに土木学会事業課に代金(郵送希望者は送料を加算)を添えてお申込下さい。

- 1. 期 日：1970年1月30日(金)~31日(土)
- 2. 会 場：土木学会土木図書館講堂(新宿区四谷1丁目)
- 3. 参加費：無 料
- 4. 講演論文集：1200円(送料100円)

第1日：1月30日(金)

9.30~9.45	開会あいさつ	土木学会衛生工学委員会委員長	寺 島 重 雄
9.45~10.30	(1) 純有機化合物のBODと生化学的分解性	東京大学	岡 沢 和 好
10.30~11.15	(2) 硝酸塩を酸素源とした生物処理法(石油化学工業廃水について)	栗田工業	○宮地 有正・杉本 和雄
11.15~12.00	(3) 湿式酸化法の基礎研究	東京大学	○近藤 準子・斉藤 隆
12.00~13.00	昼 食・休 憩		
13.00~13.45	(4) 雨水ますの規模と実用計算法	建設省土研 柏谷 衛・都市局	稲場紀久雄・土研○横尾将位
13.45~14.30	(5) 現場打ちコンクリートの溶出とその水質に及ぼす影響	京都大学	岩井重久・○井上頼光・長尾正悟
14.30~14.45	休 憩		
14.45~15.30	(6) 河川における再曝気	建設省土研	村 上 健
15.30~16.15	(7) 河口堰貯水区間の酸素収支	建設省九州地建 堀川光治・土研	柏谷 衛・村上 健・○長谷川清
16.15~17.00	(8) 酸素による汚濁河川の悪臭防止に関する実験	東京都立大学	左合正雄・○茂庭竹生・長田貞子
		東京都公害研	古井戸良雄・土屋隆雄・味村 昭

第2日：1月31日(土)

9.30~10.15	(9) 短絡流による沈殿処理能力の弾力性について	京都大学	○住友 恒・末石富太郎
10.15~11.00	(10) 乱れの構造に関する研究(第1報)	東京大学	杉木昭典・○松尾友矩・太田 博・野間一夫
11.00~11.45	(11) 散気式エアレーションタンクの酸素移動	建設省土研	柏谷 衛・安中徳二・○及川直也
11.45~12.45	昼 食・休 憩		
12.45~13.30	(12) 配水コントロールに関する二、三の基礎的計算	北海道大学	高 桑 哲 男
13.30~14.15	(13) 下水管網の標準化による感度分析	建設省都市局	久保 赳・○亀田 泰武
14.15~15.00	(14) 大気環境基準の確率論的一考察	関西大学	庄司 光・京都大学
15.00~15.15	休 憩		○塚谷恒雄
15.15~16.00	(15) 水質の変化とその予報に関する研究(3)(貯水池の水温変化予知への拡散モデルの適用と相似則)	京都大学	合田 健・○海老瀬潜一
16.00~16.45	(16) 水質の変化とその予報に関する研究(2)(2次元等流としての厳密な解析について)	京都大学	合 田 健
16.45~17.00	閉会あいさつ	衛生工学委員会委員長	寺 島 重 雄

コンクリート 第18号 ■現場コンクリートの品質管理と品質検査(二版)  
ライブラリー

コンクリートの品質管理は、一般製品の管理とは異なり、統計的手法を単純に適用できない面もあり、特に品質検査結果の判定には複雑な要素を考慮することが必要となります。

本書は、コンクリートの品質管理を統計数理の説明から実施例まで詳細に解説し、再版では JIS の改訂にともないレデーミクスト コンクリート使用条件、使用されたレデーミクスト コンクリートの品質を追加しましたのでこの機会にぜひご一読下さい。

体 裁：B5判8ボ一段組 112ページ

定 価：700円 会員特価 550円

著 者：尾坂芳夫(国鉄構造物設計事務所技師)

第6回 岩盤力学に関するシンポジウム

◀ 2月5日(木)~6日(金) ▶

標記シンポジウムを下記により開催致しますので、ふるってご参加下さるようご案内致します。

1. 期 日：1970年2月5日(木)~6日(金)
2. 会 場：土木学会土木図書館講堂
3. 主 催：土木学会岩盤力学委員会
4. 参加費：無 料
5. 講演概要：会場にて実費頒布
6. プログラム：

第1日：2月5日(木)

- |             |                                |                      |                |
|-------------|--------------------------------|----------------------|----------------|
| 9.30~9.40   | 開会あいさつ                         | 土木学会岩盤力学委員会委員長       | 岡 本 舜 三        |
| 9.40~10.05  | (1) 地すべりの電気探査                  | 京都大学 吉住永三郎・菅野 強・鹿島建設 | 佐藤忠五郎・○谷本治重    |
| 10.05~10.30 | (2) 斜面の警戒と崩壊予知                 | 応用地質調査事務所            | 齊 藤 迪 孝        |
| 10.30~10.55 | (3) 高速道路における岩盤の掘さくと切土法面の崩壊について | 日本道路公団館林工事事務所        | 中 出 尚 夫        |
| 10.55~11.25 | 討 議 (1)~(3)                    |                      |                |
| 11.25~11.35 | 休 憩                            |                      |                |
| 11.35~12.25 | [特別講演] 題目未定                    | 東京大学                 | 最 上 武 雄        |
| 12.25~13.25 | 昼 食・休 憩                        |                      |                |
| 13.25~13.50 | (4) 長期測定を行なったアーチダム基礎岩盤の変形      | 西日本技術開発              | 青木 謙三・○田野襄一郎   |
| 13.50~14.15 | (5) 高根第1ダムの基礎処理について            | 中部電力高根水力建設所          | 堀 口 晋 作        |
| 14.15~14.40 | (6) 基礎および堤体内における浸透流の解析について     | 名古屋大学                | 川本 桃万・駒田 広也    |
| 14.40~15.10 | 討 議 (4)~(6)                    |                      |                |
| 15.10~15.20 | 休 憩                            |                      |                |
| 15.20~15.45 | (7) 岩盤の非弾性的挙動に対する力学的解析の一試み     | 建設省土木研究所             | ○飯田 隆一・小林 茂敏   |
| 15.45~16.10 | (8) 有限要素法による粘弾性体の解析            | 早稲田大学                | 堀井健一郎・○川原 睦人   |
| 16.10~16.35 | (9) 岩石のような脆性材料の変形特性について        | 名古屋大学                | 川本桃万・富田和政・秋本昌胤 |
| 16.35~17.05 | 討 議 (7)~(9)                    |                      |                |

第2日：2月6日(金)

- |             |   |                         |                       |      |
|-------------|---|-------------------------|-----------------------|------|
| 9.30~9.55   | (10) 孔中受震器を用いた都市土木における岩盤の弾性的測定              | 鹿島建設                    | ○維候 謙・遠西光男・京都大学防災研究所  | 西 正男 |
| 9.55~10.20  | (11) トンネル施工のための岩盤強度分類                       | 国鉄鉄道技術研究所               | 池 田 和 彦               |      |
| 10.20~10.40 | 討 議 (10)~(11)                               |                         |                       |      |
| 10.40~10.50 | 休 憩   |                         |                       |      |
| 10.50~11.15 | (12) 岩盤の現地調査方法について (特にたい積岩におけるジョイントと岩石強度分布) | 埼玉大学岩盤研究グループ (小野寺透ほか6名) |                       |      |
| 11.15~11.40 | (13) 岩盤挙動の実測と予測 (動粘性, 吸水膨張, ひびわれ性)          | 電力中央研究所                 | ○林 正夫・北原義浩・中新井克子・日比野敏 |      |
| 11.40~12.00 | 討 議 (12)~(13)                               |                         |                       |      |
| 12.00~13.00 | 昼 食・休 憩                                     |                         |                       |      |
| 13.00~13.25 | (14) ロックボルト定着機構                             | 国鉄鉄道技術研究所               | ○三沢 清扶・高橋 昭教          |      |
| 13.25~13.50 | (15) 青函トンネルの湧水処理のグラウトについて                   | 日本鉄道建設公団青函トンネル調査事務所     | 横 山 章                 |      |
| 13.50~14.10 | 討 議 (14)~(15)                               |                         |                       |      |
| 14.10~14.20 | 休 憩   |                         |                       |      |
| 14.20~14.45 | (16) トンネル掘さくに伴う地表, 地中の沈下                    | 国鉄山陽新幹線建設部              | 鳥 田 隆 夫               |      |
| 14.45~15.10 | (17) 旧地すべり地におけるトンネルの掘削と岩盤挙動                 | 鹿島建設                    | ○渋谷長美・田村 計・岡林信行       |      |
| 15.10~15.30 | 討 議 (16)~(17)                               |                         |                       |      |
| 15.30~15.40 | 休 憩   |                         |                       |      |
| 15.40~16.10 | 映 画 (題目未定)                                  |                         |                       |      |
| 16.10~16.20 | 閉会あいさつ                                      | 土木学会岩盤力学委員会副委員長         | 畑 野 正                 |      |

- 第5回岩盤力学に関するシンポジウム講演概要  
 第5回衛生工学研究討論会講演論文集  
 第9回地震工学研究発表会講演概要  
 第13回水理講演会講演集  
 混相流シンポジウム講演前刷集

- 体裁：B5判 53 ページ 定価 600 円 送料 60 円  
 体裁：B5判 169 ページ 定価 1200 円 送料 80 円  
 体裁：B5判 103 ページ 定価 700 円 送料 70 円  
 体裁：B5判 120 ページ 定価 800 円 送料 70 円  
 体裁：B5判 600 ページ 定価 600 円 送料 60 円

第14回水理講演会

◀ 2月13日(金)~14日(土) ▶

標記講演会を下記により開催いたしますので多数ご参加下さるようご案内いたします。

1. 期 日：1970年2月13日(金)~14日(土)
2. 会 場：発明会館(東京都港区芝西久保明舟町17 地下鉄虎ノ門下車徒歩3分)
3. 主 催：土木学会水理委員会
4. 参加費：聴講無料
5. 講演集：当日会場にて実費頒布
6. プログラム

第1日：2月13日(金)

9.15~9.30	開会あいさつ	土木学会水理委員会委員長 林 泰 造
9.30~9.50	(1) 河口の平衡断面積について	宮崎大学 ○吉高 益男・島田 米夫
9.50~10.10	(2) 河口滞砂における掃流砂間数の検討(現地観測とその解析)	農林省農業土木試験場 中村 充・○佐々木泰雄
10.10~10.30	(3) 掃流砂れきの運動形態とその力学過程について	京都大学防災研究所 ○土屋義人・建設省近畿地建 青山俊樹
10.30~10.45	討 議 (1)~(3)	
10.45~11.05	(4) 段波状流れの不連続面におけるれきの移動	京都大学防災研究所 矢野勝正・大阪府立工業高専 ○大同淳之
11.05~11.25	(5) 波を伴う掃砂現象について	農林省農業土木試験場 ○中村 充・白石英彦・佐々木泰雄・伊藤三甲雄
11.25~11.45	(6) 波自身による拡散の試論	東京工業大学 日 野 幹 雄
11.45~12.00	討 議 (4)~(6)	
12.00~13.00	昼 食・休 憩	
13.00~13.20	(7) Bagners 乱流における乱れのエネルギーの輸送について	東京工業大学 日 野 幹 雄
13.20~13.40	(8) linear-hi-Polymer 稀溶液の乱流	東京工業大学 日野幹雄・○長谷川佐代子
13.40~14.00	(9) 重複波の中におかれた球状の物体の振動	東京工業大学 ○河野 二夫・椎 貝 博美
14.00~14.15	討 議 (7)~(9)	
14.15~14.35	(10) 高レイノルズ数浸透流の乱れの計測	大阪府立工業高専 佐 藤 邦 明
14.35~14.55	(11) 跳水における水位変動について	台湾成功大学 郭 金 棟
14.55~15.15	(12) 水室式沈殿槽について	豊田工業高専 山 本 広 次
15.15~15.30	討 議 (10)~(12)	
15.30~15.45	休 憩	
15.45~17.15	第13回国際水理学会会議報告	

第2日：2月14日(土)

10.00~10.20	(13) 粗度近傍における流れの特性	名古屋大学 足立 昭平・○伊藤 敏慶
10.20~10.40	(14) 開水路湾曲部における掃流力分布について	神戸大学 松 梨 順 一 郎
10.40~11.00	(15) 貯水池における河床の低下と armouring について	九州大学 平 野 宗 夫
11.00~11.20	(16) 地形因子の効果に関する研究その1	岐阜大学 増田 重臣・○久保田 稔
11.20~11.40	討 議 (13)~(16)	

河川災害に関するシンポジウム

◀ 2月14日(土) 13.00~ ▶

日本学術会議水特別委員会および災害科学総合研究班河川分科会主催、土木学会水理委員会後援のもとに標記シンポジウムを第14回水理講演会終了後下記により開催いたしますので、多数ご参加下さるようご案内致します。

1. 日 時：1970年2月14日(土) 13.00~17.00
2. 会 場：発明会館(東京都港区芝西久保明舟町17)
3. プログラム：
  - (1) 昭和44年8月水害に関する総合的研究
    - ・奥三河天竜地区災害調査グループ
    - ・奥只見地区災害調査グループ
    - ・富山地区災害調査グループ
    - ・新潟地区災害調査グループ
  - (2) 災害科学研究体制についての意見交換

## 第4回土木計画学シンポジウム

◀ 2月7日(土) ▶

今回のシンポジウムは、土木計画学の体系化への一つの試みとして、とくに水資源計画および交通計画を中心に取上げ、それぞれをシステムフローに分解して、両者の共通性を追求します。計画システムの確立のためには、現象システムと評価システムとの均衡ある発展をうながす必要がありますが、今回は現象システムに考察の重点をおき、両計画のシステムフローの分類と各サブシステムに共通の性質を見出すことを目標とします。

討議に十分時間をかけ、討議の内容も Proceedings に収録しますので、各位ふるってご参加下さい。

土木学会土木計画学研究委員会

1. 期 日：1970年2月7日(土)
2. 時 間：9.30～17.45
3. 会 場：土木学会土木図書館講堂(東京都新宿区四谷1丁目/国電・地下鉄四谷駅際外濠公園内/電話 03-351-5130)
4. 主 題：システムフローとしての土木計画
5. 申込方法：参加希望者は、官製はがきに、①氏名、②所属官職名、③連絡先住所・電話、④会員区分、⑤連絡事項を記入のうえ、1970年1月10日までに下記へお申し込み下さい。参加票をお送りします。  
〒160 東京都新宿区四谷1丁目 土木学会事務局編集課
6. 参加費：会費 1500円、会員外 2000円  
ただし、前刷代および追って発刊される“第4回土木計画学シンポジウム”の図書代を含みます。当日受付にて徴収します。
7. 定 員：一般 75名
8. 備 考：不明の点は電話でお問合せ下さい。

## 構造物の耐風性に関する第1回シンポジウム開催と発表論文の募集

世界有数の強風である台風の来襲をうけるわが国においては、橋、建物、送電鉄塔などの構造物の設計に耐風上の配慮を欠かすことはできない。ことに、最近における構造工学の長足の進歩にもとづき構造物の長大化、高層化、軽量化が急速に進められているが、これに伴って耐風設計の重要性もまた飛躍的に増加してきております。

もともと、構造物に対する風の作用と構造物の応答には、強風の構造、構造物の空気力学的ならびに力学的特性などが影響するものであって、従来は、気象、土木、建築、電気、航空などの各分野でそれぞれ独自に研究が進められてきました。しかしながらこれらの研究には共通あるいは関連するものが多く、研究成果の交流や意見の交換を要望する声は次第に高まりつつあります。

すなわち、日本学術会議構造研究連絡委員会に耐風構造分科会が設置され、各分野における研究の連絡と総合がはかられつつあります。また、国際的にみても、イギリス、カナダおよびわが国の関係研究者から、国際的研究集会の定期的開催が強く要請され、近くこのための国際組織が確立されんとする機運にあります。

このような時にあたり、気象、土木、建築、電気の各分野の関係者による“構造物の耐風性に関する第1回シンポジウム”を関係学協会の共催のもとに開催することになりました。

会員各位には下記規定ご参照のうえ発表論文をふるってご応募下さい。

1. 共 催：電気学会・土木学会(今回の幹事学会)・日本気象学会・日本建築学会・日本鋼構造協会
2. 開催期日：1970年5月8日(金)～9日(土)の予定
3. 会 場：土木学会土木図書館講堂(東京都新宿区四谷1丁目、国電四谷下車徒歩3分)の予定
4. 発表論文の募集
  - (1) 課 題 課題はつぎによるものとし、論文の内容は独創性あるものでなければならない。
    - ① 強風の性質、設計風速、② 風圧および風荷重、③ 風の動的作用と構造物の応答、④ 耐風設計方法、施工例および事故例
  - (2) 応募の方法
    - a. 論文提出希望者は、1969年12月15日までに所属学協会、氏名(連名の場合は登壇者に○印を付ける、勤務先、職名、連絡先を明記のうえ、邦文 800字以内の内容梗概を所属学協会に提出する。

- b. シンポジウム組織委員会は、発表論文の採否を 1970 年 1 月 15 日までに決定し、応募者に通知する。
- c. 採択された論文著者は、1970 年 2 月 28 日までに次の体裁に整えた原稿を所属学協会または幹事学協会である土木学会（郵便番号 160 東京都新宿区四谷 1 丁目）に提出する。

(3) 発表論文の体裁

- a. 用語は日本語とする。
- b. 著者は送付された所定の原稿用紙（図、表、写真を含む。1 ページは 1620 字）にタイプ（または黒インキにて手書き）する。ページ数は 7 ページ以内で奇数ページとする。別に B5 判の用紙 1 枚にタイプした英文概要を付けるものとする。
- c. タイプ（または黒インキにて手書き）の要領は、著者へ送付する原稿用紙に添付の執筆要領により、オフセット印刷に適するよう黒色を用いる。

(4) 発表論文の取扱い

- a. 発表論文は、前刷としてオフセット印刷し、希望者には実費頒布できるようにする。
- b. 著者には論文 1 題につき別刷 50 部を贈呈する。ただし、50 部以上の増刷りは原則として行なわない。

## 第 2 回コンクリート講習会—コンクリート技術最近の問題点—

- 1. 主 催：日本コンクリート会議
- 2. 後 援：土木学会ほか 11 団体
- 3. 開催地、期日、講師、定員：

開催地 (期日)	前		後		定 員	
	午	前	午	後		
東京 1月23日(金)	(1) 梅村 魁	(2) 西 忠雄	(3) 園分 正胤	(4) 亀田 泰弘	(5) 中川 中夫	600名
福岡 1月27日(火)	(1) 梅村 魁	(2) 徳光 善治	(3) 佐治 泰次	(4) 村田 二郎	(5) 田村 尹行	350名
広島 1月29日(木)	(1) 船越 稔	(2) 白山 和久	(3) 柳田 力	(4) 加賀 秀治	(5) 山崎 寛司	250名
高松 1月31日(土)	(1) 野口 功	(2) 白山 和久	(3) 荒木 謙一	(4) 加賀 秀治	(5) 山崎 寛司	150名
札幌 2月3日(火)	(1) 横道 英雄	(2) 大島 久次	(3) 林 正道	(4) 洪 悦郎	(5) 高木 徹夫	250名
仙台 2月6日(金)	(1) 尾坂 芳夫	(2) 岸谷 孝一	(3) 伊東 茂富	(4) 亀田 泰弘	(5) 樋口 芳朗	250名
大阪 2月10日(火)	(1) 梅村 魁	(2) 岡田 清	(3) 毛見 虎雄	(4) 奥島 正一	(5) 山田 順治	400名
名古屋 2月12日(木)	(1) 小倉弘一郎	(2) 小坂 義夫	(3) 園分 正胤	(4) 尾坂 芳夫	(5) 杉木 六郎	300名

(なお、講師の都合により変更することがあります)

4. 科目、時間割

- (1) 構造設計 9.30~11.00
- (2) 材 料 11.10~12.10
- (3) 施 工 13.00~14.00
- (4) レデーミクストコンクリート 14.00~15.00
- (5) コンクリート製品 15.10~16.10

5. テキスト：「コンクリート技術最近の問題点」

6. 聴講料：1名 1000円 (テキスト代共) コンクリート会議会員のみ

1名 1500円 ( ) 会員外

7. なお、詳細は直接日本コンクリート会議 (東京都港区芝公園 6 号地 3 芝パークホテル 310 号 電話 03-433-4131 内線 310 番) へお問い合わせ下さい。

## 第 7 回理工学における同位元素研究発表会論文募集

関係学協会の共同主催で、標記の研究発表会が開催される。この研究発表会の目的は、異なった専門分野の研究者が一堂に会し、同位元素および放射線の利用の技術を中心とした研究、およびその技術の基礎となる研究の発表と討論を行ない、各専門分野間の知識と技術の交流を図ろうとするものである。関係学協会の会員の応募、参加を希望している。

会期：1970年4月16日（木）～18日（土）

会場：国立教育会館（東京虎の門）

共同主催者 応用物理学会，化学工業協会，金属表面技術協会，空気調和・衛生工学会，計測自動制御学会，高分子学会，質量分析学会，信号保安協会，石油学会，石油技術協会，電気化学協会，電気学会，電子通信学会，土木学会，日本医学放射線学会，日本化学会，日本機械学会，日本気象学会，日本金属学会，日本原子力学会，日本建築学会，日本鉱業会，日本鉱山地質学会，日本写真学会，日本食品照射研究協議会，日本水産学会，日本地質学会，日本鉄鋼協会，日本農芸化学会，日本非破壊検査協会，日本物理学会，日本分析化学会，日本放射性同位元素協会，日本放射線影響学会，日本放射線化学会，日本保健物理協議会，日本木材学会，日本薬学会，物理探鉱技術協会，窯業協会，溶接学会（五十音順）

### 発表論文

(1) 内容 それぞれの研究分野において，その専門的成果をうけるにいたった同位元素および放射線の利用の技術に重点をおいた論文と，同位元素，放射線の利用の基礎となる研究論文とする。なお，得られた専門的成果の報告も差しつかえない。

研究の内容には，少なくとも一部に未発表の部分が含まれていることを必要とする。

(2) 発表申込区分 プログラム編成の便宜上，つぎのように申込区分を設ける。

- ① 放射線照射のための線源および装置に関するもの
- ② 放射線化学その他照射効果に関するもの
- ③ ラジオグラフィに関するもの（装置に関するものを含む）
- ④ オートラジオグラフィに関するもの
- ⑤ 放射線利用計測機器の利用と開発に関するもの
- ⑥ 放射線利用機器に関するもの（エネルギー的利用，発光塗料なども含む）
- ⑦ トレーサー的利用に関するもの（安定同位元素も含む）
- ⑧ 分析に関するもの（安定同位元素も含む）
- ⑨ 製造，分離，精製に関するもの（安定同位元素も含む）
- ⑩ 化合物の合成，標識化に関するもの（安定同位元素も含む）
- ⑪ 放射線測定法および測定器に関するもの
- ⑫ 安全取扱いに関するもの（しゃへい，施設，設備，器具，健康管理なども含む）
- ⑬ 廃棄物処理，汚染除去に関するもの
- ⑭ 地球化学，ラジオエコロジーおよび宇宙化学に関するもの（安定同位元素も含む）
- ⑮ その他

(3) 発表時間：1件の発表 15分以内の予定

発表者の資格：発表申込者が所属する主催学協会の年会（大会）等の規定または慣例に従う。

発表申込み：所定の申込書（1件1通）により申し込む。申込書は，下記あて請求されたい。

東京都文京区本駒込2丁目 28番 45号（理研内）日本放射性同位元素協会内

理工学における同位元素研究発表会運営委員会 電話 東京 (03) 946-7111

発表申込締切：1970年1月31日（土）必着

講演要旨 講演要旨集を発行する。発表申込みがあり次第所定の原稿用紙（1200字程度）を送付する。

講演要旨原稿締切：1970年2月28日（土）必着

### その他

(1) 研究発表会の運営は，主催学協会より選出された各1名の委員で構成された運営委員会で行なう。

(2) フルペーパーの報文集は特に発行しない。

なお，日本放射性同位元素協会の学術機関誌“RADIOISOTOPES”にはこの研究発表会の発表論文にかぎり，同協会会員外でも投稿することができる。

(3) つぎのいずれかに該当する場合には発表をお断りする。

- i) 講演要旨に記述された内容が本研究発表会の趣旨に合致すると認められない場合
- ii) 発表者の資格が，所属主催学協会の規定または慣例に合致しない場合
- iii) 期日までに講演要旨原稿の提出がなかった場合

## 第1回安全工学国内シンポジウム

◀ 5月19日(火)~20日(水) ▶

共 催：日本学術会議安全工学分科会・安全工学協会\*・電気学会・土木学会・日本化学会・日本機械学会・日本建築学会  
(\*印は幹事学会)

目 的：最近における産業の飛躍的發展に伴い、産業界における火災、爆発、破壊、故障、障害、中毒などの各種産業災害は、健康阻害ないし生産阻害の因子として、その防止が緊要とされている。

このためには安全のための工学の進歩がかくべからざるものである。国内外のこの領域の研究連絡を行なうことを目的として、昭和41年日本学術会議安全工学研究連絡委員会安全工学分科会が設置された。

本趣旨に基づき関連学協会と共催の下に安全工学国内シンポジウムを開催するものである。

標記大会を次の要領で開催します(入場無料)ので、多数ご参加下さるようご案内いたします。

1. 日 時：1970年5月19日(火)、20日(水) 2日間

第1日(5月19日)研究発表

第2日(5月20日)研究発表、パネルディスカッション、パーティ

2. 場 所：東京(会場は未定、1会場または2会場)

3. パネルディスカッション：テーマ“安全工学の在りかた”

4. 講演申込要項

(1) 内 容：1) 火災・爆発防止に関する安全工学/2) 有害物質・有害環境に関する安全工学/3) 人間と機械に関する安全工学/4) 故障を含む信頼性工学/5) 建設(土木・建築)に関する安全工学/6) 電気に関する安全工学

(2) 申込先：安全工学協会 安全工学国内シンポジウム係 231 横浜市中区尾上町 4-47 大和銀行ビル3階  
TEL 横浜 (045) 641-3213

(4) 講演申込締切：1970年2月28日(土)

(5) 予稿原稿締切：1970年3月31日(火)

(5) 申 込 書 式：

1) 申込みは はがき または適当な用紙に下記の項目を書いて前記申込先へ2月28日(土)までにお送り下さい。  
発表者氏名(ふりがな)——講演者に○印をつけて下さい。

研究場所、講演題目、講演概要(プログラム編成のため)200字以内、連絡先(住所・氏名)所属学協会

2) 申込みがあると折返しオフセット原稿用紙と予稿原稿の書き方を送付します。

3) 原稿は必ず所定の原稿用紙(B5判)を使用し、図、表とも2枚もしくは4枚とすること。

(6) 講演について：

1) 講演は1件15分(討論5分を含めて20分以内)とする。

2) 講演は既発表のものでも差支えない。

3) 申込演講の採択およびプログラム編成は本シンポジウム実行委員会に一任のこと。

(7) パーティについて：パーティは立食会です。参加を希望される方は4月30日(木)までにはがきで安全工学協会へお申込み下さい。

参加費(500円)はパーティ当日(5月20日)会場で申し受けます。

中部支部行事案内 (郵便番号 450 名古屋市中村区笹島町 1-18・名古屋鉄道管理局施設部)  
工事第1課内 電話 052-551-8111 内線 266

### (1) 昭和44年度研究発表会

◀ 2月20日(金) ▶

1. 日 時：1970年2月20日(金) 8.55~17.20

2. 場 所：国鉄中部鉄道学園

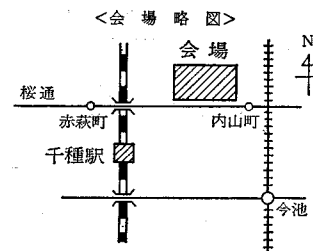
3. 講演プログラム

(1) 特別講演 13.30~13.40 名工大 荒井利一郎

(2) 一般講演 第1会場(土質力学・鉄道工学・構造力学等 29題)

第2会場(河川工学・海岸工学・コンクリート工学・都市工学等 29題)

4. 講演題目および発表者：詳細は学会誌1月号に掲載します。



5. 聴 講：無 料

6. 申込方法：聴講希望者は 1 月 31 日（土）までに勤務先、連絡先、氏名を明記の上、土木学会中部支部へお申し込み下さい。

関西支部行事案内（郵便番号 537（大阪市東成区中道元町 1 丁目 149 番地）  
電話 06-981-2510、振替口座 大阪 82599 番）

(1) 海外事情講演会

◀ 1 月 17 日（土） ▶

1. 日 時：1970 年 1 月 17 日（土）15.00～17.00

2. 場 所：好文倶楽部集会室 電話大阪（06）361-1261

大阪市北区梅田 2 第一生命ビル 12 階 国鉄大阪駅前

3. 題目と講師

開 会 挨拶	土木学会関西支部長	野 瀬 正 儀
15.00～16.00 ① 海外の原子力発電所の状況	関西電力（株）高浜原子力 P/S 建設準備所長	川 本 正 身
16.00～17.00 ② ヨーロッパの地下鉄建設状況について	大阪市交通局高速鉄道建設本部計画部長	早 木 保 則
閉 会 挨拶	土木学会関西支部幹事長	岡 田 清

4. 聴 講：無料，来聴歓迎

本講演会終了後別掲のとおり会員懇親会を催しますから多数ご参加下さい。

(2) 会 員 懇 親 会

◀ 1 月 17 日（土） ▶

1. 日 時：1970 年 1 月 17 日（土）17.00 よりの予定（海外事情講演会終了後）

2. 場 所：好文倶楽部会議室 電話大阪（06）361-1261

大阪市北区梅田 2 第一生命ビル 12 階 国鉄大阪駅前

3. 参加費：500 円

4. 申込期限：1970 年 1 月 10 日（土）

5. 申込方法：参加希望者は勤務先、連絡先および氏名を明記（様式随意）のうえ、参加費 500 円を添えて 1 月 10 日（土）までに土木学会関西支部へお申込み下さい。参加証をお送りします。

(3) 舗装に関する研究会

◀ 1 月 30 日（金） ▶

1. 日 時：1970 年 1 月 30 日（金）9.30～17.00

2. 場 所：大阪科学技術センター 8 階大ホール 電話大阪（06）443-5321

大阪市西区靱 1 丁目 118 番地（地下鉄 3 号線信濃橋下車北へ 150 m 靱公園北東角）

3. 題目と講師：

開 会 挨拶	土木学会関西支部長	野 瀬 正 儀
9.30～11.00 ① 舗装路面のすべり——路面のすべり現象とその対策について——	建設省土木研究所道路部長 工博	市 原 薫
11.10～12.40 ② アスファルト舗装の設計——わが国の舗装構造設計上の問題について——	建設省土木研究所舗装研究室主任	南 雲 貞 夫
13.30～15.00 ③ コンクリート舗装の設計——コンクリート舗装要綱の改訂に伴う構造設計上の問題点について——	日本道路公団技術部調査役 工博	岩 間 滋
15.10～16.40 ④ アスファルト混合物の検査と品質管理——主として現行の抜取検査方式と問題点について——	建設省土木研究所舗装研究室長 工修	松 野 三 朗
閉 会 挨拶	日本道路公団大阪支社工事課長	竹 中 弘 起
	土木学会関西支部幹事長	岡 田 清

4. 定 員：300 名

5. 聴 講：無料，来聴歓迎

（お願い）① 各職場班で参加予定人員をおまとめのうえ 1 月 20 日（火）までにはがきまたは電話にて土木学会関西支部までご一報下さい。

② 本研究会終了後別掲のとおり講師を囲み若い会員懇親パーティを催しますから、申込方法により多数お申し込み下さい。



(4) 若い会員懇親パーティ (第3回)

◀ 1月30日(金) ▶

若い会員相互の親睦をはかりたいと存じますので、多数ご参加のうえ、自由なご発言をお待ち申し上げます。

1. 日 時：1970年1月30日(金) 17.00よりの予定(舗装研究会終了後)
2. 場 所：大阪科学技術センター8階ロビー 電話大阪(06)443-5321  
大阪市西区靱1丁目118番地(地下鉄3号線信濃橋下車北へ150m 靱公園北東角)
3. 参加者資格：39才未満の土木学会会員
4. 定 員：50名(先着順)
5. 参加費：無 料
6. 申込期限：1970年1月20日(火)
7. 申込方法：参加希望者は勤務先、連絡先および氏名を明記(様式随意)して土木学会関西支部へお申し込み下さい。参加証をお送りします。

(5) 「都市廃棄物の処理と処分」講習会

◀ 3月17日(火) ▶

1. 日 時：1970年3月17日(火) 10.00~17.00
2. 場 所：大阪科学技術センター4階401号 電話大阪(06)443-5321  
大阪市西区靱1丁目118番地(地下鉄3号線信濃橋下車北へ150m 靱公園北東角)
3. 題目と講師：

	開 会 接 拶	土木学会関西支部長	野 瀬 正 儀
10.00~11.00	① 都市廃棄物の現状と将来	京都大学教授工学部 工博	岩 井 重 久
11.00~12.00	② 都市廃棄物に関する行政	大阪府衛生部環境衛生課長 医博	榊 孝 悌
12.00~12.30	質 疑 応 答		
13.30~14.30	③ 廃棄物と収集と運搬	京都大学教授工学部 工博	岩 井 重 久
		○京都大学工学部衛生工学教室	高 月 敏
14.30~15.30	④ 塵芥処理	日立造船(株)技術研究所	春 山 鴻
15.30~16.30	⑤ 産業廃棄物処理	京都大学教授工学部 工博	平 岡 正 勝
16.30~17.00	質 疑 応 答		
	閉 会 接 拶	土木学会関西支部幹事長	岡 田 清
4. 定 員：150名(先着順)
5. 参加費：会員 1000円(テキスト代を含む)  
ただし講習会当日は1300円となりますので、期限内に前納して下さい。  
非会員 1300円(テキスト代を含む)
6. 申込期限：1970年2月28日(土)
7. 申込方法：参加希望者は勤務先、連絡先、氏名および会員の種別を明記(様式随意)し、上記参加費を添えて土木学会関西支部へお申し込み下さい。  
参加者には参加証をお送りしますから当日は必ずご持参下さい。参加証のない人は入場をお断りします。  
(注)都合により講師の順序に変更があるかも知れませんのでご了承下さい。

(6) 「耐食・耐候材料の現状」講習会

◀ 2月20日(金)~21日(土) ▶

主 催：日本材料学会関西支部 協 賛：土木学会関西支部、ほか9学協会

1. 期 日：1970年2月20日(金)、21日(土)の両日
2. 場 所：大阪府商工会館 電話大阪(06)271-0031  
大阪市東区南本町(地下鉄1号線本町下車西へ100m)
3. 題目と講師：

第1日(2月20日)			
9.30~10.50	① 耐食材料としてのプラスチックの応用と現状	木村化工機(株)研	山 崎 昇
10.50~12.10	② 各種高分子材料の耐食性と評価	鉄道技術研	栗 原 福 次
13.10~14.30	③ FRP材料の耐食、耐食性	社化工(株)	鳩 貝 康 夫
14.30~15.50	④ 耐食耐候塗料	大日本塗料(株)中研	牧 島 博
15.50~17.10	⑤ 繊維製品の耐食性	東洋レーヨン(株)	(未定)
第2日(2月21日)			
10.00~11.50	⑥ 総 論	同志社大学	奥 田 聡
12.50~14.10	⑦ 新しいガラス材料	旭硝子(株)	橋 昇 治
14.10~15.30	⑧ 新しい炭素材料	日本カーボン(株)	石 川 敏 功
15.40~17.00	⑨ コンクリートの腐食防食	(株)竹中工務店	久 保 田 浩 典

4. 定 員：150 名（先着順）
5. 参加費：主催・協賛学会 会 員 6 000 円（テキスト代を含む）  
非会員 8 000 円（                      ”                      ）
6. 申込期限：1970 年 2 月 10 日（火）
7. 申込方法：参加希望者は勤務先、連絡先、氏名および所属学協会名を明記し、上記参加費を添えてつぎの申込先へお申し込み下さい。  
受講者には聴講証をお送りしますから、会期中は必ずご持参下さい。

申込先

日本材料学会関西支部 電話大阪 (06) 441-5531 番  
大阪市西区靱1丁目 大阪科学技術センター6階

**(7) 関西支部年次学術講演会（昭和 45 年度）**                      ◀ 5 月 10 日（日） ▶

1. 日 時：1970 年 5 月 10 日（日）9.00～17.00 の予定
2. 場 所：近畿大学理工学部（東大阪市小若江 321 近鉄大阪線長瀬駅下車徒歩約 10 分）  
プログラム、講演概要の頒価およびその他の事項について学会誌 4 月号（一部 3 月号）に掲載の予定です。講演ご希望の方はつぎの講演申込要領をご覧のうえお申し込み下さい。

年次学術講演会申込要領

1. 講演申込方法：講演希望者は申込カード（4 枚複写綴）に部門、および区分、題目、スライドの有無、勤務先、会員種別、学位、氏名（連名の時は講演者に○印をつける）、卒業学校名および年次、連絡先を明記のうえ 2 月 14 日（土）までに土木学会関西支部へ必着するよう提出して下さい。申込カードは関西支部へ請求して下さい。
2. 講演内容：講演は未発表のもので 1 人 1 題にかぎります。
3. 講演時間：1 題につき 10 分の予定です。
4. 講演部門：本年度よりつぎの 5 部門に変更しますが、都合により講演者の了承を得たうえで部門を変更させていただくことがあります。

（お願い）申込みカードの部門欄には部門番号と区分をご記入下さい（例：第 2 部門 衛生工学）。

部 門	区 分	細 分
第 1 部 門	土 木 構 造	応用力学・構造力学・橋梁一般・鋼橋等
第 2 部 門	水工学・衛生工学	水理学・水文学・発電水力・衛生工学・河川工学・港湾工学・海岸工学等
第 3 部 門	土質工学・岩盤力学	土質工学・基礎工学・岩盤力学等
第 4 部 門	交通工学・都市計画・国土計画	道路工学・鉄道工学・交通計画・都市計画・国土計画・測量等
第 5 部 門	土木材料・施工法	土木材料・土木施工法・コンクリートおよび鉄筋コンクリート工学等

5. 原稿提出要領：講演申込者にはつぎの要領で講演概要の原稿を提出していただきます。
  - (1) 講演概要は講演者の原稿をそのまま縮写してオフセット印刷としますから必ず所定の用紙をご使用下さい。
  - (2) 用紙は執筆要領（原稿の書き方）とともに講演申込者に関西支部からお渡します。
  - (3) 原稿は 4 月 4 日（土）（期限厳守）までに関西支部へ必着するようお送り下さい。
  - (4) 原稿の長さは 1 題につき 2 ページ（図表、写真を含め 1 ページ 1 480 字詰）を原則とします。超過する場合は 2 ページまで、1 ページにつき 1 000 円の製版料を申し受けます。
6. 講演概要：講演者（○印）には無料、一般は有料、別刷は講演者（○印）には 30 部無料で差し上げますが、それ以外の取扱いはいたしません。

**(付) テキスト頒布について**

工程管理（演習問題解答付）	頒 1 000 円	送料 100 円
工事の安全対策	700 円	" 80 円
近畿開発と大型土木プロジェクト	400 円	" 60 円
公害振動測定法（案）（騒音振動委員会編）	無 料	" 35 円
騒音・振動公害	" 1 000 円	" 100 円
シールド工法研究会資料（地下鉄シールドの問題点 シールド工事施工上の問題点）の 2 点 1 組	" 100 円	" 55 円
写真測量とその応用	" 800 円	" 80 円
土木工学における動的現象の計測とデータ処理	" 700 円	" 80 円

水理学・水文学における最近の進歩	頒価 1000 円	送料 100 円
プレストレストコンクリート最近の進歩	" 800 円	" 80 円
土木構造物の振動と安全性	" 1000 円	" 80 円
関西の土木 100 年 (支部創立 40 周年記念出版)	" 700 円	" 100 円 (残部僅少)

上記テキストご希望の方は頒価に送料を添えて土木学会関西支部 (振替口座利用) へお申し込み下さい。

西部文部行事案内 (郵便番号 810 福岡市薬院 2 丁目 14 番 21 号)  
電話 (092) 78-3714~3716

(1) 昭和 44 年度研究発表会

◀ 2 月 22 日 (日) ▶

- 開催月日: 1970 年 2 月 22 日 (日)
- 同 会場: 九州大学工学部教室
- 発表申込: 1969 年 12 月 20 日までに勤務先, 会員種別, 氏名, 発表題目を支部あて申込んで下さい。1 人 1 題とします。
- 発表時間: 1 題につき 15 分 (質問時間を告めます。スライドで使用はできません)
- 原稿提出その他:
  - ① 原稿はオフセット印刷とし支部から原稿用紙を送ります。
  - ② 原稿用紙は 1 ページ 1620 字詰。1 題につき 2 ページまた 4 はページとします。
  - ③ 原稿提出: 1970 年 1 月 25 日までに支部へ
  - ④ 増刷 20 部さしあげます。それ以上必要のときは実費を申し受けます。
  - ⑤ 発表者には当日往復汽車普通運賃をさしあげます。
- 申込先: 福岡市薬院 2 丁目 14-21 〒 810 土木学会西部支部

北海道支部行事案内 (郵便番号 060 札幌市南 1 条西 2 丁目・勸銀ビル 5 階)  
電話 0122-25-7038

(1) わかりやすい工程管理講習会

◀ 1 月 27 日 (火)~28 日 (水) ▶

- 主 催: 土木学会北海道支部
- 日 時: 1970 年 1 月 27 日 (火)~28 日 (水) 全日 2 日間
  - 場 所: 北海道建設会館 9 階大会議室 (札幌市北 4 西 3)
  - 定 員: 120 名 (先着順)
  - 受講料: 会員 2400 円 (テキストを含む) 会員外 3000 円
  - 申込方法: (イ) 受講料を添えて支部事務局へ。受講券交付。  
(ロ) テキスト不用のときは会員 1000 円, 会員外は 1600 円  
(ハ) テキストのみ必要のときは, 1 部 1600 円
  - 申込締切: 1970 年 1 月 15 日 (木) (事前申込みのない参加は, テキストの用意ができない場合がある)
  - 講習の内容: 下記 PERT 基礎コース スケジュールによる。
 

第 1 日目: 1 月 27 日 (火)

    - 9.00~ PERT 概論 (PERT の発祥・PERT の意義・PERT と工程管理)
    - 9.30~ PERT スライド (鹿島映画社製作)
    - 10.05~ PERT 系手法 (PERT と CPM-RAMPS-PERTTREE)
    - 11.00~ 矢線図の作り方 (矢線図のルール・準備計算・結合点計算)
    - 13.00~ 矢線図練習問題
    - 14.00~ 日程計算の方法 (結合点時刻・作業時刻・タイムスケール表示)

第 2 日目: 1 月 28 日 (水)

    - 9.00~ 日程計算練習問題
    - 10.00~ 配員計算の方法 (山積み・山崩し)
    - 11.30~ 配員計算練習問題
    - 13.00~ " "
    - 14.00~ 費用計算について
    - 14.45~ PERT と電子計算機 (インプット・アウトプット・処理内容)
    - 15.30~ ディスカッション
  - テキスト: 現場技術者のためのわかりやすい PERT・CPM (庄子幹雄著)

## 国際会議ニュース

### (1) Twelfth Conference on Coastal Engineering (第12回海岸工学会議)

表記の国際会議が1970年9月13日～18日の期間にアメリカ合衆国ワシントン(Washington, D.C.)のMayflowerホテルで開催されます。論文提出を予定される方は1970年2月1日までに、下記に1頁の論文要旨4部を送って下さい。論文の内容としては、海岸周辺における波、水理現象ならびに砂移動の問題(wave, hydraulic and sedimentation problems in the coastal environment)に関連したものであること、と指定され基礎、土質力学あるいは純然たる構造物の設計に関する問題(foundations, soil mechanics or purely structural design problems)は除外されています。

連絡先: The Secretary, Coastal Engineering Research Council, American Society of Civil Engineers

412 O'Brien Hall, University of California, Berkley, 94720, U.S.A.

付記: Proceedings of the Eleventh Conference on Coastal Engineering (全巻, \$12.00)は下記より発行されました。直接または外国図書取扱店より購入できます。

Technical Publications, American Society of Civil Engineers

345 East 47th Street, New York 10016, U.S.A.

Montréal 248, Qué., Canada

### (2) Seminar on Finite Element Techniques in Solid Mechanics

上記のセミナーが、1970年4月15～17日 Southampton 大学(イギリス)で開かれます。講師には、O.C. Zienkiewicz 教授(Waels 大学), P.B. Morice 教授(Southampton 大学), J. Connor 教授(MIT)ら、7名が予定されています。

なお、つぎの二つの会合が、この前に開かれます。

a) Symposium on Structural Dynamics, 1970年3月23～25日 Loughborough 大学にて、

b) 4th International Conference on Stress Analysis, 1967年4月7～10日 Cambridge 大学にて。

上記のセミナー、シンポジウム、会議の内容に興味を

もたれる方、および参加を希望される方は、名古屋大学工学部土木工学科 成岡昌夫教授(電話 052-781-5111-Ext. 4617)にご照会下さい。

### (3) —The Ocean World— Joint Oceanographic Assembly

期日: 1970年9月14日～25日

開催地: 東京経団連会館

論文提出方法: Title と Abstract を下記に提出のこと。

Title は1970年4月までに。

文京区本郷7丁目

東京大学地球物理学教室内

日本準備委員会

参加費: 20ドル

### (4) Fourth Symposium on Earthquake Engineering

期日: 1970年11月14, 15, 16日

開催地: University of Roorkee, India

テーマ ○ Structural Response and Design of Structures for Earthquake and Blast Forces

○ Design of Dams and Appurtenant Works in Earthquake zones

○ Housing in Seismic Zones and Damage during Recent Earthquakes

○ Soil and Foundation Behaviour During Earthquakes

○ Instruments for Earthquake Engineering and Seismological Studies

○ Seismicity, Wave Propagation and Ground Motion Seismo-Tectonic Studies of Seismic Regions

○ Observation of Earthquake Damage and Determination of Isoseismal and Iso-Force Lines

会議用語: 英語

論文提出方法: 300 words 内の Synopsis を1970年3月31日までに提出

論文は6000 words 内で2部1970年6月30日までに到着するように。

連絡先および論文提出先: School of Research and Training in Earthquake Engineering University of Roorkee (U.P.), India